

(1)

はじめに

2024 鹿児島県男女共同参画週間事業

数字よ、語れ！ かごしま×ジェンダー平等

鹿児島県の総人口は、**1955**（昭和 30）年の約 **204** 万人をピークに減少に転じ、**2024**（令和 6）年 6 月 1 日現在では、**1,536,059** 人になっており、今後も人口減少は加速的に進行することが予想されます。

年齢区分別の人口をみると、**14** 歳以下の年少人口や **15** 歳以上 **64** 歳以下の生産年齢人口は減少する一方、**65** 歳以上の高齢者人口は増加しており、**2023**（令和 5）年現在、本県の高齢化率（総人口に占める 65 歳以上の割合）は **34.0%** と、全国より高い水準で推移しています。

このような本格的な人口減少・少子高齢化の進行は、持続可能な社会経済の活力醸成を図る地方創生の基盤的課題です。

本展示は、地方創生の観点を踏まえ、本県における男女間の意識の偏り、男女の格差の現状やその要因、影響を統計によって把握するジェンダー統計を掲示しました。

例えば・・・、現在 **13** 歳（中学 1 年生）の子どもたちが社会の担い手としての活躍が期待される年齢になる **20** 年後の鹿児島は、どのような状況だろうと思うとき、

また、

「鹿児島に住み続けたい」

「自分の将来に明るい希望を持っている」

と考えている多くの子ども・若者の希望が叶うかごしまでありたいと思うとき・・・、

いまを生きる私たちの現状を照らし出すデータは、あなたに、何を語りかけるのでしょうか？

ときに、ことばより深く訴求する数字とのひとときの対話が、男女共同参画・ジェンダー平等について考える機会になりますように・・・。

※鹿児島県「子ども・若者に関する意識調査（令和 4 年 3 月）」調査対象 13 歳から 29 歳までの鹿児島県民 4,000 人
 「鹿児島に住み続けたい」は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、「自分の将来に明るい希望を持っている」は、「希望がある」と「どちらかといえば希望がある」の合計。

男子

64.2%

66.9%

女子

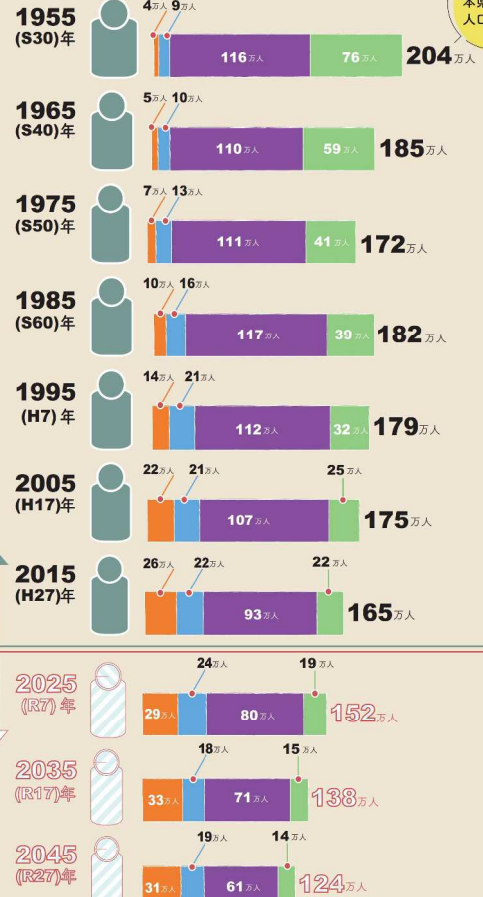
75.3%

77.2%

(2)

鹿児島県の人口の推移

75歳以上 65~74歳 15~64歳 0~14歳



本県人口ピーク

実績値
推計値

2015年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」
 ※2015年までの総人口（棒グラフ右数字）は年齢別推計値

(3)

鹿児島県の少子高齢化の現状

2023年

出生数 **9,867** 人（全国 **23** 位）出生率（人口千人当たりの出生数の割合） **6.4** 東京都 **6.4**合計特殊出生率 **1.48**（全国 **4** 位） 東京都 **0.99**

※15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

厚生労働省「令和 5 年人口動態統計月報年計（概数）」

2023年

65歳以上の割合 女性 **36.5%** 男性 **31.3%**75歳以上の割合 女性 **20.7%** 男性 **14.7%**

鹿児島県「令和 5 年鹿児島県の推計人口」

一般世帯数に占める高齢単独世帯の割合

65歳以上

女性

11.2%

男性

5.2%

75歳以上

女性

7.6%

男性

2.2%

総務省「令和 2 年 国勢調査」

(4)

鹿児島県の転出超過と人口の状況

2014 年からの 10 年間の転出超過

2014 年からの 10 年間、転入者数よりも転出者数が上回る転出超過が続いている。

10 年間の転入者数 - 転出者数は・・・

女性 **-21,268** 人 男性 **-12,863** 人女性は男性の **1.7** 倍

2014 年からの 10 年間で

女性	15~19 歳	-11,197 人	15~19 歳	-17,989 人
20~24 歳	-10,313 人	20~24 歳	-6,286 人	

女性は 10 代後半と 20 代前半、男性は 10 代後半で転出超過が多くなっている。

2020 2023 4年間の人口の状況

20~30 代

では女性が 男性の **1.5** 倍減少女性 **-10,898** 人男性 **-7,408** 人60 歳未満では **30~34** 歳女性が **-4,177** 人

と最も 減少

2020 年より **11.3%**

総務省「令和 5 年 住民基本台帳人口移動報告」より算出 / 鹿児島県「鹿児島県の推計人口」、総務省「令和 2 年 国勢調査」より算出

(5)

各分野の男女の地位の平等感

「平等である」

「男性優遇」

「男性の方が非常に優遇されている」

+
「どちらかといえば男性の方が優遇されている」学校教育の中で **57.9%**家庭の中で **42.8%**法律や制度で **34.9%**職場の中で **27.6%**地域社会の中で **27.2%**社会通念、
慣習・しきたり
などで **15.1%**学校教育の中で **13.1%**法律や制度で **38.8%**家庭の中で **44.7%**職場の中で **49.3%**地域社会の中で **53.2%**社会通念、
慣習・しきたり
などで **68.9%**

鹿児島県「令和3年度男女共同参画に関する県民意識調査」

(6)

ワークライフバランスの状況

男女の
地位の
平等感

家庭の中で

「平等である」

女性
36.9%男性
51.2%

「男性優遇」

女性
50.8%男性
37.3%

鹿児島県「令和3年度男女共同参画に関する県民意識調査」

職場

常用労働者1人平均
月間総実労働時間

鹿児島県「令和4年度鹿児島県の給与と労働時間」

従業員30人以上

女性 **132.3**
時間男性 **155.3**
時間

従業員5人以上

女性 **122.3**
時間男性 **152.3**
時間

家庭

1日の
夫と妻の家事関連時間

総務省「令和3年社会生活基本調査」

夫が有業で
妻が無業の世帯女性 **400**分男性 **54**分

共働き世帯

女性 **235**分男性 **49**分

(7)

雇用形態別雇用者割合

非正規の職員・従業員 **54.3%**

女性

正規の職員・従業員 **45.7%**

鹿児島県「令和4年度就業構造基本調査結果 鹿児島県の概況」

非正規の職員・従業員 **22.6%**

男性

正規の職員・従業員 **77.4%**

事業所の管理的地位に占める女性の割合

係長相当職

38.2%

課長相当職

25.2%

部長相当職

17.5%

鹿児島県「令和4年度労働条件実態調査」

男女別平均所定内給与額と男女間給与比率

2023
平均所定内給与額女性 **228,400**円男性 **298,100**円

全国平均

女性 **262,600**円男性 **350,900**円

東京都

女性 **299,200**円男性 **409,600**円2023
男女間給与比率女性 **76.6**男性 **100**

厚生労働省「令和5年賃金構造基本統計調査」

(8)

働く高齢者の状況と年金

65歳以上の有業者の割合（2022年 鹿児島県）

女性

21.0%
(全国10位)

男性

37.8%
(全国8位)

総務省「令和4年度就業構造基本調査」より算出

65歳～69歳の労働力率※（2010～2020年 鹿児島県）

女性

2010年 **30.8%** → 2020年 **45.2%**2010年と2020年を比較すると**1.5**倍

男性

2010年 **51.7%** → 2020年 **62.9%**2010年と2020年を比較すると**1.2**倍※労働力率(%) = $\frac{\text{労働力人口(就業者+求職者)}}{15歳以上人口} \times 100$

総務省「平成22年・令和2年「国勢調査」

厚生年金受給平均月額（全国）

女性

104,878円

男性

163,875円

厚生労働省「令和4年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」

厚生年金受給平均月額

144,982円
全国平均

鹿児島県

127,243円

神奈川県

全国**1**位
164,088円

厚生労働省「令和4年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」

職場におけるジェンダーギャップ